

感染症予防対策を講じた 災害ボランティアセンター運営及び 災害ボランティア活動について

本会では、災害にも強い福祉のまちづくりを目指すため、市町村災害ボランティアセンターの強化と復興を見据えた支援を第六次活動推進計画(2022年までの3か年計画)の重点施策におき、市町村社協と連携した研修や災害ボランティア育成のための講座を開催しています。

本年2月にはオンラインを用いて以下の研修を実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大は今後も、予断を許さない状況ですが、災害ボランティアセンターの強化と復興を見据えた支援を行うため引き続き研修等を実施していきます。



社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
〒770-0943 徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター内
tel: 088-654-4461 fax: 088-654-9250
e-mail: info@e-fukushi.jp https://fukushi-tokushima.or.jp/

災害ボランティアセンター体制整備支援事業

- 開催日 令和3年2月3日(水)
- 場所 とくしま県民活動プラザ 第2会議室・オンライン(Zoom)
- 参加者 県内市町社協職員他25名(内オンライン参加22名)
- 内容 平時の福祉活動や普段の共同連携の重要性や実践例、また災害ボランティアセンターで情報支援連携をとりながらも、支援が十分に生かされる方法や、地域の中での普段からの関係作りについて、実践例を用いながらご指導いただき、今後の実際の活動に生かせる情報を得る貴重な研修となりました。
- 講師 社会福祉法人 大阪ボランティア協会
常務理事・事務局長 永井 美佳 氏



感染症予防対策に留意した受講風景

災害ボランティア講座

- 開催日 令和3年2月13日(土)
- 場所 オンライン(Zoom)
- 参加者 9名
- 内容 南海トラフ巨大地震やその他の自然災害への対応に、平常時や災害発生時における取り組みが大きな課題となっているなか、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い災害ボランティア活動に際して、感染防止対策を講じることが必要不可欠な状況であることを踏まえ、実際の活動例等とおした災害ボランティア活動の基本的な知識や事例を学び今後の活動に繋がる知識が得られました。
- 講師 社会福祉法人 大阪ボランティア協会
事務局主幹 梅田 純平 氏



Zoomミーティングを活用した受講風景



とくしま県民活動プラザ

〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目14番地
沖洲マリナーミナルビル1F
tel:088-664-8211 fax:088-664-5345
e-mail:info@plaza-tokushima.com
http://www.plaza-tokushima.com
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日、年末年始)



マスコットキャラクター プラザ

ひと55号 april.2021

CONTENTS

特集 NPO法人 とくしまコウノトリ基金
コウノトリと共生できる地域社会をめざして

ひと NPO法人 補助犬とくしま
杉井 ひとみさん
～人と犬が共生する豊かな社会へ～

シリーズ この人から
NPO法人徳島共生塾一歩会 谷口 右也さん
中山間地農家の「ごまめの歯ぎしり」

事業報告
「ゆめバンクとくしま」寄付による
助成事業の活動報告

ハートリレー
No.55 三谷さんから小倉さんへ

NPO法人 とくしまコウノトリ基金

コウノトリをはじめとする希少鳥類の保護と、
豊かな自然を活かした地域農業や地域経済の活性化を目的に活動しています！





特定非営利活動法人 とくしまコウノトリ基金

Non-Profit Organization Tokushima Stork Fund

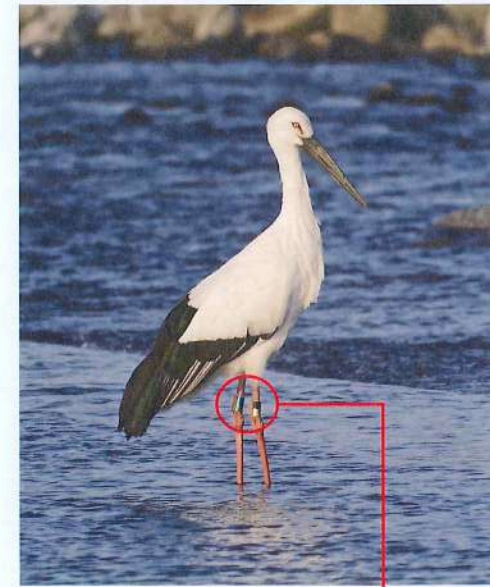
コウノトリと共生できる地域社会をめざして

かつては日本のいたるところで見られたコウノトリは、生息環境の変化などにより、1971年に日本の空から一度は姿を消しました。その後、兵庫県などによる「コウノトリ野生復帰プロジェクト」により、2005年に放鳥が始まり、徐々に野生のコウノトリが増えてきました。そして、この徳島にもコウノトリが飛んで来るようになり、2017年には鳴門市で、兵庫県豊岡市周辺以外では全国初の野外繁殖が実現しました。その主な餌場はレンコン畑で、農家の皆さんが、長年に渡り減農薬で環境に優しい安全安心なレンコンを作る努力をしているところにコウノトリが来るようになったんです。

そこで、地元の人達と農家、県、鳴門市、JAと一緒に、コウノトリの定着と繁殖のために力を合わせようと、「コウノトリ定着推進連絡協議会」が発足しました。観察や撮影のマナーを伝える看板の設置や、餌場となるビオトープ作りなどの活動を続けることでコウノトリがたくさん来るようになりました。

また、コウノトリは県内各地にも飛来しはじめ、定着推進連絡協議会の活動だけではカバーしきれなくなったんです。そこで、活動をさらに充実させるため、2019年8月29日に「NPO法人とくしまコウノトリ基金」を設立しました。

私たちの活動のメインは、コウノトリがたくさん定着し繁殖できるような環境づくりです。巣立ち前のコウノトリの旺盛な食欲を満たすために、休耕田を利用し、餌となる魚やカエルを増やすためのビオトープを作っています。また、県の「足環装着プロジェクトチーム」に参画し、足環情報をもとにコウノトリの飛来数や生態を調査しています。



個体識別のために足環が着いたコウノトリ

こうした活動と同時に、農業をはじめ地域を元気にする取り組みも必要だと思っています。保全するだけでは、地域に何もお返しができないからです。例えば、減農薬の特別栽培レンコンを「コウノトリおもてなしれんこん」として鳴門市が認証することにより、商品価値が高まりました。これにより、農業を継続したり、従事したりする人が増えることが期待できます。

また、地域の酒造会社が、ビオトープ米で日本酒を作るプロジェクトに参画し、売上の一部を当NPOに寄付してくれています。他にも、自転車やカヌーを使い、生息地や地域を巡るエコツアーなど、周辺の観光地とも一体となった取り組みなどを考えています。

このように、コウノトリと共生できる地域社会を作っていくというのが私たちNPOの大きな狙いです。コウノトリが安心して暮らせる環境を作ること、優れた自然環境の中での心豊かな暮らしや、農業を継続していくための環境づくりとも重なります。これからも、持続可能な地域社会づくりと、コウノトリの幸せな未来を創る活動を関係の皆様と一緒に続けていきたいと思っています。



くまがい こうそう
理事長 熊谷 幸三さん

くまがい こうそう
理事長 熊谷 幸三

住所：〒771-0203 徳島県板野郡北島町中村字岸ノ上1-288
TEL：090-2825-6721 URL：https://www.t-stork.jp



特定非営利活動法人
とくしまコウノトリ基金
Non-Profit Organization Tokushima Stork Fund

活動内容

ビオトープ米でお酒を造るプロジェクト

コウノトリ基金では、地元企業と連携した取り組みをすすめています。



↑「ビオトープ米でお酒を造るプロジェクト」
熊谷理事長(左)と酒造会社の松浦さん(右)



鳴門のペア「あさひ」と「ゆうひ」にちなんだ日本酒

エコ自転車モニターツアー

自転車でコウノトリについて学びながら鳴門の魅力を巡るツアーを開催しています。



←ツアーで提供されたれんこん料理



コウノトリを探しながら
自転車でれんこん畑の中を散策

広報活動



↑
徳島阿波おどり空港
での紹介パネル

徳島県庁や徳島阿波おどり空港等でコウノトリを知ってもらうための広報活動を行っています。



県庁1階での展示

休耕田をビオトープに 【水生動物を増やすプロジェクト】



↑水を張り、フナの子魚数千匹余りを放流し、コウノトリのエサとなる水生動物の生育場を作る

今は使われていない休耕田で新たなビオトープを作る取り組みをしています。



完成したビオトープの看板

しばおり ふみあき
理事・事務局長 柴折 史昭さん

コウノトリの定着、繁殖を進めるうえでは、餌場の確保のほか、営巣場所の確保や観察・撮影マナーの向上なども重要なテーマです。
県内唯一のペアは、電柱の上に巣を作ったので、四国電力がご好意で、感電防止策を講じてくださいました。コウノトリは、日本に住む鳥の中では最大級で、木の枝を組み合わせて作る巣も直径2mもの大きさです。今後、ペアを増やしていくためには、より安全に子育てのできる専用の巣塔の設置が望まれます。

鳴門付近は、冬場にシベリア方面からナベヅルが渡ってくる程の優れた環境で、コウノトリとナベヅルと一緒に見られる貴重な場所です。豊かな自然環境を守りながら、関係者の皆様とともに保護活動を進めたいと考えています。



かわた なゆみ
事務局 河田 奈弓さん

地域おこし協力隊として鳴門市で働いた経験から、様々な業種の方と知り合いました。そこで培ったネットワークを活かして、地元の方とコウノトリを繋げる橋渡しをしたいと思い、とくしまコウノトリ基金の活動に携わるようになりました。

初めは、コウノトリは遠い存在で、自分たちには関係がないと思っていた方が多かったのですが、様々な活動を通じて、コウノトリと繋がり、関心を持ってくれる人が増えてきたのが嬉しいです。『徳島にはコウノトリがいっぱいおるんじょ』と自慢話をする人を増やすことができるよう取り組んでいきたいと思っています。



今回紹介するのは、NPO法人補助犬とくしま理事長の杉井ひとみさんです。杉井さんは、県内の盲導犬、介助犬、聴導犬といった、身体障がい者補助犬の育成と普及啓発活動を行っておられます。また、ペット介護ステーション「ジュエル」で、介護が必要なペットを中心に、ペットホテルやしつけ教室などを展開されています。

幼少時から、犬、猫、鳥、ハムスターなど、いろいろな動物たちに囲まれて育った杉井さん。20年前、縁あってパピーウォーカー(盲導犬候補の子犬を預かるボランティア)を経験したのをきっかけに、それ以来ずっと、補助犬と関わる生活を送ってきました。そうした経験から杉井さんは補助犬の存在が、まだまだ世間に知られていない、もっと知ってもらいたい、と強く思うようになったそうです。

また、この想いは、数年前、交通事故で亡くなった盲導犬ユーザー(盲導犬を連れている人)だったご友人、山橋さんの想いでもあるのだそうです。「補助犬の素晴らしさを、同じ境遇にいる仲間たちに伝えたい。」という山橋さんの想いを受け継いだ杉井さんは、補助犬とくしまを設立し、様々な活動に取り組まれています。

定休日のない「ジュエル」を運営しながら、補助犬とくしまの活動に力を注ぐ杉井さん。「周りからは、大変だねとよく言われますが、そんなことはないですよ。自分の好きなことをやっているの、毎日が本当に楽しく充実しています。年中無休でも平気。」と、朗らかにおっしゃいます。どんなに忙しくても、自分の仕事は、一つ一つ丁寧に、そして大切に組み立てていく。犬の一生を預かっているのだから諦めという言葉はないのだと、力強く話してくださいました。



セラピードッグを目指すアル(右)とモニー(左)



特定非営利活動法人 補助犬とくしま
 すぎい
 理事長 杉井ひとみさん
 ●連絡先 Tel: 070-2614-7003(10:00~17:00)
 Mail: hojoken.tokushima@gmail.com
 URL: https://www.hojoken.tokushima.jp/

杉井さんは、補助犬と出逢い、サポートしてもらうことで、生活が便利になるのはもちろんのこと、何より心が救われるとおっしゃいます。そして、人生が、運命が変わるのだと。人と犬も縁あって出逢うもの。だから、是非、出逢うべくパートナーと巡り合ってほしいとおっしゃいます。

「犬は、言葉で気持ちを伝えることはできません。でも、私たちが犬に寄り添うことで、心を通わせることはできます。補助犬とくしま、そして「ジュエル」を、ここがあって本当によかった、と心から喜んでもらえる場所にしたいんです。」そう語る杉井さんの瞳には、人と犬がお互いを想い、共に生きる豊かな未来が映っているのでしょう。

(取材:丸山・大津)



啓発グッズを作成するボランティア

中山間地農家の「ごまめの歯ざりしり」

NPO法人徳島共生塾一步会 谷口 右也
 理事長 たにぐち すけや

4連敗?中の獣害対策

「あと10年もすれば、このあたりの農地も草ぼうぼうだ。」「農業をすると赤字ばかりだもんな。」などと、中山間地ばかりか、平地でも聞かれる話。

かく言う私、長い公務員生活も終え、NPO活動も、新開前理事長のレガシーを食い潰しながらも踏みとどまるが、どうしても悔しいのが「谷間に広がる



獣害対策の柵で囲んだ農地

実家の農地の荒廃。兼業農家といいつつ、赤字の垂れ流し。職場の同僚で、書道をたしなむ女性曰く、「年間、〇〇万円ぐらい使ってますよ。」とのお話。絶句!わが家の赤字と同じ。「業(なりわい)」といえず、「趣味」といえず、一体これは何?

国土保全、里山保全の美名は不要!、中山間地をどうする?誰がやる?ビジョンはあるの?などと野暮は言わぬ。自分がやらず誰がやる。かくして、まずは4年連続やられっぱなしの「シカ、イノシシ対策」。ネットを張ったりするも連敗続き。「まあ、某シリーズで8連敗中のチームもあることだし...」と、教えてもらった獣害対策の柵で農地を囲む作業を開始。柵だけ購入、あとは支柱をもらい、打ち込み道具を借りて、理論的には1m600円程度の格安で作業中。多分、今年は負けられない(はず?)。中山間地農家の変貌をご報告します。



「ゆめバンクとくしま」寄付による助成事業の活動報告

「ゆめバンクとくしま」では、団体、個人からの寄付を助成金として活用し、社会貢献活動に役立てています。今回は、令和2年度の活動(最終回)です。



特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク

「親子里山 体験講座」

身近な里山で子どもと保護者を対象に楽しく体験してもらう



森の中の遊び体験▶

阿波日本語支援教室

「阿波日本語支援教室」

外国人対象の日本語教室を開催する



書き初め体験▶

特定非営利活動法人 赤い屋根上板

「『いちごmilk』 ~おはなし会の楽しみを!」

在宅保育の母親の子育てを支援する



◀紙芝居を楽しむ親子たち

傾聴ボランティアくつろぎ

「傾聴ボランティア」

独居老人や施設入居者の話し相手、聞き手となる



◀講習会

ハートリレー

No.55 三谷さんから小倉さんへ



徳島レビー小体型認知症家族会 代表
おくら かずよ
小倉 和代さん

経験を活かし家族に寄り添いたい

「こんにちは、はじめまして小倉と申します。」古くからの友人だったかのように、人懐っこくやさしい笑顔での挨拶。レビー小体型認知症家族の会を立ち上げたいのだと熱い想いを語られる彼女の魅力に引き込まれた。

彼女の本来は看護師で、病院に勤めていたが、八年前にご主人がレビー小体型認知症を発症され、介護に専念されるために退職された。日常生活が日々できなくなる中、幻視や幻聴に悩まされているご主人を見ながら、どんどん壊れていくご自身に気付かれた。誰かに聞いて欲しい、寄り添って欲しい、そんな気持ちをはき出す所もなく苦しい日々を過ごされた経験を生かし、同じ悩みを抱える方々のお役に立ちたいという想いから、家族会を立ち上げられた。

まだまだ知られていないレビー小体型認知症という病気のことを、もっともっと知って理解して欲しい、悩まれているご家族の方に、家族会があるということを知って欲しいと話す。コロナ禍でなかなか活動できない日常ではあるが、少しでもお役に立ちたいという想いで、個人的にもご家族様と会われたりと努力されている。



あたい かずこ
文・三谷 和子

とくしま県民活動プラザ

●プラザ開館時間 開館時間：10:00～18:00
【研修室利用時間】
火曜日～土曜日：10:00～21:00
日・祝日：10:00～18:00
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)、
年末年始(12/29～翌1/3)



●公共交通機関をご利用の場合●

JR徳島駅前、徳島市営バスターミナル6番のりばより、
・「中央市場」行きに乗車 終点「沖洲マリンターミナル」下車すぐ
・「沖洲・南海フェリー前(マリンピア経由)」行きに乗車「マリンターミナル前」下車すぐ

令和3年度 貸メールボックス・ロッカー 利用団体募集!



団体間の情報交換等に利用できるメールボックスや、会議や作業に使う資料・用紙・文具等を入れておけるロッカーを1年間無料でご利用できます。(1年ごとに更新)

利用を希望する団体は、プラザに団体登録後、申請してください。※令和2年度から継続利用される団体も、更新手続きを行ってください。団体登録、ロッカー等の申請はプラザHPをご覧ください。

編集後記

令和3年度最初の「ひと・リプル」はいかがでしたか?様々なコーナーを通して、活躍されている方々の人柄と熱意をお伝えすることができたと思います。疫病退散!で一日も早く普通の日常生活が戻ることを願い、予防対策を徹底していきましょう。(篠原)

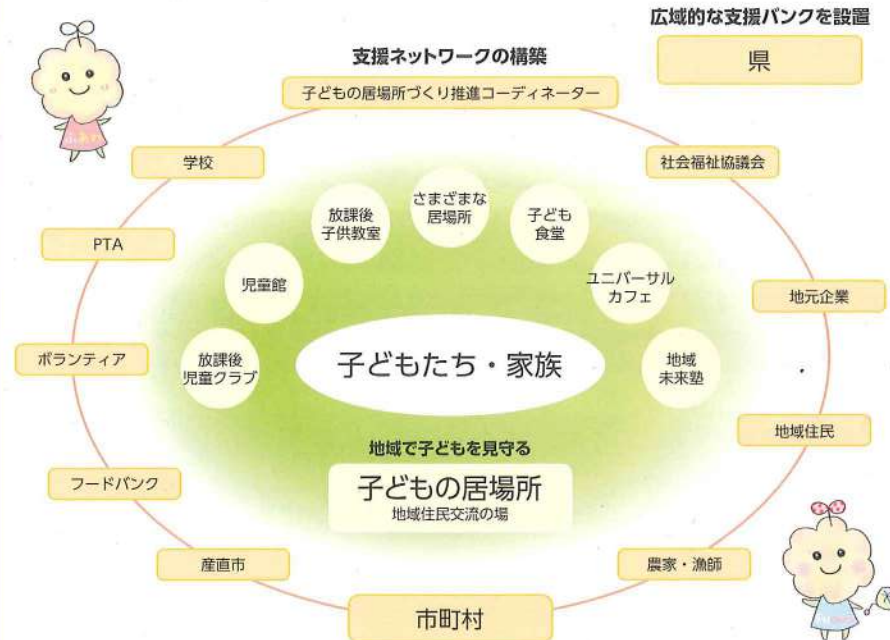
『子どもの居場所』づくり ～子どもの育みを地域で見守るVol.1～

子どもは、社会を映す鏡であり、経済の不況や先の見えづらい社会情勢をはじめ、家族が抱える“生活のしづらさ”や“子育てのしづらさ”は、大人のみならず、子どもたちが育つ環境に大きな影響を与えることとなります。今、社会・経済状況の変化や、少子高齢化、人口減少の進行によって、家族形態や機能は変化し、人と人、人と地域のつながりは希薄化し、このような社会の変化は、個人や世帯が抱える社会的孤立や生活困窮などの“生活のしづらさ”を、ますます複雑にしています。

そうした状況に対応するために、住民が参加する見守り活動や生活支援サービス、子どもや子育て世代から、高齢者まで幅広い地域住民の拠点となるサロン活動など、様々な福祉活動が進められています。

本会では、基金を設立したり、県内の食事の提供、学習支援、直接的な居場所づくりなどの取り組みが安定したものとなるよう「子どもの居場所づくり推進事業」を実施しています。

子どものために何かしたいというそれぞれの思いや地域に応じて取り組まれる「子どもの居場所」を、次号、御紹介して参ります。



社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
地域福祉課
子どもの居場所づくり推進事業担当
TEL. 080-8633-1657
FAX. 088-654-9250
メール ibasyo@tokushakyo.jp

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

令和3年度
全国200万人
加入!!

保険金額・年間保険料(1名あたり)

保険金の種類	プラン	
	基本プラン	天災・地震補償プラン
死亡保険金	1,040万円	
後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	
入院保険金日額	6,500円	
手術 入院中の手術	65,000円	
保険金 外来の手術	32,500円	
通院保険金日額	4,000円	
地震・噴火・津波による死傷	×	○
賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)	
年間保険料	350円	500円

＜基本プランに加入される方へ＞
基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。
◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。
※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

https://www.fukushihoken.co.jp
ふくしの保険 検索

商品パンフレットはコチラ
(ふくしの保険ホームページ)



ボランティア行事用保険 送迎サービス補償 福祉サービス総合補償

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険) (傷害保険) (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
〈引受幹事〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30～17:30(12/29～1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

CLEANUP アドプト・プログラム吉野川
吉野川を私たちの手でもっときれいに!!
参加団体募集!!
HPはこちらから↓

吉野川交流推進会議 徳島県庁 未来創生政策課内
TEL: 088-621-2743 FAX: 088-621-2758

ふくしと私



特別養護老人ホーム水の花荘

介護職員 谷崎 莉香
たけし かりか

「人を支える仕事がしたい。」と、漠然とした目標を持って、保育・福祉系の専門学校に入りました。三年間の在学中に、認定こども園、幼稚園、障がい者施設、高齢者施設など、短期間ですが、様々な場所で実習をさせて頂きました。

その中で、特に働いてみたいと思ったのが、高齢者施設でした。おじいちゃん子で、高齢化の進んだ緑豊かな町で育ったこ



活動風景

ともあり、高齢者の方々の生活を支える今の仕事に自然と惹かれたのだと思います。

卒業後から地元の特別養護老人ホームで働き、日頃感じる事は、利用者様一人一人に合わせた対応の大切さと難しさです。多くの利用者様が生活を送っている場であり、身体状況や性格はもちろん、趣味趣向も違います。例えば、食事一つにしても、嚥下機能や咀嚼機能の状態によって食事形態も異なり、更に制限食の方もおられます。今その方にあつた食事や、安全な環境を提供できているかなど、細かい所にも気を配らなければなりません。

日々の業務をこなす事で精一杯になりがちですが、その中でも些細な事や変わった事に気が付き、その人にとって必要だと思われるケアが提供できるように、介護職だ

けではなく、生活相談員や看護師など、多職種との連携を大切にしていきたいと思っています。

利用者様やその家族の方はもちろん、地域の皆さんとの繋がりを大切に、信頼され、愛される施設を目指し、当施設ではボランティアの方々や、地元の小中学生の子ども達を招いて、祭りなどの催し物を積極的に行っていきました。しかし、昨年からの新型コロナウイルスの世界的流行により、感染防止対策のため、行事の中止を余儀なくされました。外部との交流も制限されています。面会は、窓越しで時間を短縮したり、パーティーションを用いたりして工夫して行っていますが、面会時には家族の方が利用者様の手を握りながら話をしたり、一緒に散歩することが出来ません。変化した日常の中で、利用者様は大きなストレスと不安を抱えています。このような状況の中で、今



水の花荘

私達が出来ることが、「利用者様の声に耳を傾け、安心して生活出来るよう、心に寄り添う。」そんな当たり前の事だと思っています。

コロナが収束し、元の生活に戻るまでにはもう暫くかかりそうですが、どんな時も笑顔と初心を忘れず、優しく、温かいケアが提供出来る介護士になりたいです。

地域福祉の今

最近、地域の中で、新しい生活支援の仕組みづくりが進んでいるのにお気づきですか？例えば、「地域包括ケアシステム」は既に多くの方が耳にしたことがあるかもしれません。厚生労働省は平成28年から「地域共生社会の実現」を目標に掲げ、福祉改革を進めています。将来にむけて多様化、複雑化する地域課題を解決するために、「地域の支え合いの仕組み」の見直しが求められているのです。

いくつかの自治体で取り組みに参加してみると、地域のこれまでの活動の様子がみえてきます。各地域では、福祉専門職のほかにも住民代表や民生委員、ボランティア、NPOなどの様々な人や団体が、熱心に地域課題に取り組んできたことが分かります。なかには、一見福祉の枠を超えた活動が実は地域の中で重要な役割を担っていることもあります。時には不十分な現状を突き付けられることもあります。

地域福祉の充実、新しい法律を作り、そのルール通りに社会資源を配置すれば上手いくいものでもありません。これまでの時間の中で、どれだけの方が地域課題に向き合い、コミュニケーションを重ねてきたのか。地域の歴史の上に、新しい体制を組み立てることが大事なのだと気づかれます。地域福祉は今、これまでの成果を振り返り、新しい挑戦を加えるにはどうすればよいのか、考えていくことが求められています。



徳島大学大学院
医歯薬学
研究部
口腔保健福祉学
分野
講師

柳沢 志津子

やなぎさわ しずこ



<鳴門市地域福祉計画・活動計画作成時の市民会議、住民座談会の様子>



ひろがる未来・つなぐ活動

明るく豊かなまちづくりをめざして

箸蔵でんがく会

三好市池田町の箸蔵地区は、南に吉野川、北に箸蔵寺を有する箸蔵山の麓に位置します。箸蔵でんがく会はこの地で、昭和32年に設立されました。現在24名の会員が活動し、箸蔵小学校の生徒と共に、箸蔵公民館の花壇に花を植える「緑の少年隊活動(フラワーガーデンづくり)」や地域の行事協力を行っています。次代を担う子どもたちの明るく豊かな人間性を育む取り組みを進める等の功績が認められ、平成28年には緑綬褒章を授与されました。

活動を始めた頃は、ボランティア活動への不安な思いでいっぱいでしたが、「おたがいさまの関係を築くことができたことで、やりがいへと繋がっています。」と前会長、新会長ともに口を揃えます。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動の中止が相次いでいます。顔を見ながらお互いの思いや考えを出し合い、励ましあえる場が少なくなった現状に対し、こう打ち明けます。「会員が離れていかないように、何かしていかなければいけない。これまでとは違った方法でどういった活動をしていけば良いか模索しています。」

この箸蔵地区には、箸蔵公民館を役場とし、議会も開くユニークな自治組織、「箸蔵福祉村」があります。福祉施設の人々と住民との積極的な交流を深め、福祉の心豊かな郷土をつくるため設立された地図にはない村です。全国で3番目の福祉村として設立され、今年で創立30周年を迎えました。箸蔵でんがく会は、この箸蔵福祉村の一員として活動しています。

これからもこの地が明るく豊かなまち、福祉の里となるよう願いながら、ボランティア活動が続きます。



地域とお客さまの「ベストパートナー」へ



ともに未来へ
~ to the future with ... ~



徳島県社会福祉協議会 とくしま権利擁護センター

成年後見制度の利用促進の現状と課題

とくしま権利擁護センターでは、県が、市町村、市町村社協、裁判所、弁護士会、司法書士会、社会福祉士会などと設置した「成年後見利用促進協議会」の一員として県と連携し、県内各地で市町村や市町村社協との研修会や検討会を開催し、厚生労働省や他県の先進市町村の担当者の皆様と遠隔講演をお願いしたり、意見交換を行うなどして「市町村計画の策定」と「中核機関の設置」を推進してまいりました。

こうした取組や国の後押しなどにより、2019年8月には県内の24市町村のうち「市町村計画の策定」の時期未定が16団体だったものが2021年2月現在ゼロとなり、同じく「中核機関の設置」時期未定も19団体から5団体へと減少しました。また、市町村計画は現在までに5団体が策定済みとなり、中核機関は2021年4月の阿南市及び海陽町を皮切りに2021年度合計8団体で設置予定となっております。

当センターにおいては、今後とも県と連携して、中核機関の機能充実に図り、県民の皆様がどこに住んでも

いつでも等しく成年後見に関するサービスを受けられるよう努めてまいります。



※「中核機関」

どこに住んでいる人でも必要な人が成年後見制度を利用できるように、市町村、市町村社協、専門家などをつくる地域連携ネットワークが成年後見の相談機能や広報機能などの機能を果たすよう主導するもので、市町村が直営又は、社会福祉協議会などにその機能の一部又は全部を委託することなどにより設置する。

お問い合わせ とくしま権利擁護センター TEL 088-611-1155 / FAX 088-654-9250

ありがとうございます

- 寄付金・賛助金一覧**
- 第一三共グループ従業員一同様 ●南海トラフ巨大地震から徳島県保育園児を守る会様 ●内村京子様
 - 世界平和統一家庭連合徳島家庭教会様 ●西幸子様 ●株式会社ポテショップ平松様 ●吉本美記様
 - 公益社団法人生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会様 ●篠原石油株式会社様 ●株式会社アルファ・システムズ様
 - 株式会社ふくなが様 ●協業組合徳島印刷センター様 ●一般財団法人チャイルドライフサポートとくしま様 ●有限会社KENデザイン事務所様
 - 原公認会計士税理士事務所様 ●株式会社ダイヤジム様 ●株式会社金剛様 ●株式会社阿波銀行様
 - 有限会社ライトスタッフ様 ●名鉄観光サービス株式会社徳島支店様 ●株式会社JR四国ホテルズ様 ●株式会社徳島大正銀行様
 - 徳島ホテルリゾート株式会社様 ●四国情報管理センター株式会社徳島営業所様

- 預託一覧**
- 大山力餅保存会様より、児童養護施設7か所へもち米の御寄贈 ●一般社団法人生命保険協会徳島県協会様より、障がい者を支援する2団体へ資金助成

事業所の評価、受けてみませんか？

～福祉サービス第三者評価事業とは～

第三者評価事業とは？

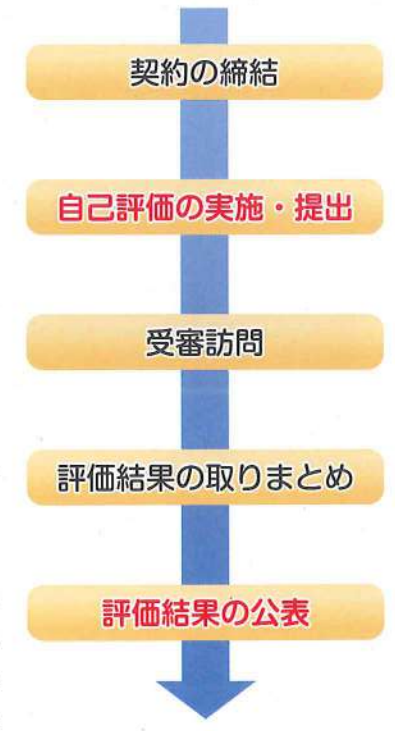
「福祉サービス第三者評価事業」とは、福祉施設・事業所でのよりよい福祉サービスの実現に向けて、中立の立場にある「第三者評価機関」が、専門的・客観的立場から、事業所(組織)の取り組みなどについて評価を行う仕組みです。

県が示した基準にもとづいて評価します。

県が示している「福祉サービス第三者評価基準」をもとに評価を行います。評価項目は、事業所の支援内容から、理念や経営状況、地域との交流など、多岐にわたります。

自己評価 → 訪問調査 → 評価結果

第三者評価では、評価機関による「訪問」だけでなく、受審する事業所の「自己評価」を大切に考えています。基準にもとづいた自己評価に取り組むことで、組織や職員個人の評価点・課題点等の発見に繋がります。また、訪問後、評価機関により作成される「評価結果」は、事業所の同意を得て、全国に公表



しています。評価結果を公表することで、事業運営の透明性の確保や事業所の支援内容等のアピール、利用者・家族等の選択に資する情報提供に繋がります。

利用者の「安心」と「信頼」
職員の「意欲向上」や「意識改革」につながります。

第三者評価を受審し、結果を公表することで、事業運営の透明性が図られます。現在、サービスを利用している方々の「安心」、これから利用を考えている方々への「信頼」につながります。また、評価の過程で自己評価に取り組むことで、日ごろのサービスの特徴や利点、課題などの発見によって、質の向上にむけた職員の意識改革に繋がります。

評価対象は「福祉サービスを提供している事業所」

高齢者福祉サービス、障がい者・児施設、保育所など、福祉サービスを提供している事業所が対象となります。

高齢 障がい 児童

受審した事業所の声

(A事業所)今回、福祉サービス第三者評価を受審する事となり、事前調査表に照らし合わせて自分達の業務について各々が確認したり、マニュアルの見直しや支援内容の見通しが出来ました。審査においても、自分たちが出来ていると思っけていても違う目線で見えていただく事で、新たな支援方法が確認できたり、アドバイスをいただいた事で、より自信に繋げる事が出来ました。

(B事業所)福祉サービス第三者評価を受審して、職員一人ひとりの意識の向上に繋がり、大変勉強になりました。今後も、この第三者評価結果をツールとして活用し、より良いサービスにしている様、職員一丸となり努めていきたいと思っけています。

お問い合わせ

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 総務企画課 福祉サービス評価事業担当
〒770-0943 徳島市中昭和町1丁目2 県立総合福祉センター3階
TEL 088-654-4461 / FAX 088-654-9250